

令和6年5月14日(火)18:00～
第1回孤独・孤立対策推進会議

埼玉県における孤独・孤立対策の取組について

埼玉県 副知事
埼玉県孤独・孤立対策推進会議 議長
山崎 達也

➤ 令和5年2月9日設置

(計 1 3 9 団体 : 令和6年4月11日時点)

プラットフォームの構成

【会員】行政機関 45団体

構成 ■ 県、県内市町村。
→孤独・孤立対策と予防に向け、包括的に取り組む。

【会員】NPO等 63団体、社協 21団体

構成 ■ NPO等、県社協、市町村社協。
→団体同士がつながり、活動を広げるきっかけに。

埼玉県
孤独・孤立対策
官民連携
プラットフォーム

【会員】業界団体、民間企業等 10団体

構成 ■ 経済団体、民間企業等。
→事業を通じ、資金や活動場所、就労への協力等を行う。

運営協議会

構成 ■ 学識経験者、地域活動実践者等、多分野で
構成。→県PFの取組の検証を行う。

プラットフォームの目的

■連携の基盤

- ・分野、種別、地域などを超え、団体が広くつながる
- ・既存の活動や事業に「孤独・孤立」の横串を通し、取組みの裾野を拡大
- ・対等な立場でフラットに連携 など

■情報の発信

- ・「困ったときに支援を求めるのは良いこと」を社会に発信し、声を上げやすい社会づくりを目指す（スティグマの解消）
- ・会員の活動や居場所などの情報を発信し、当事者の支援につなげる など

■会員の活動を支援

- ・研修や地域別ワークショップの開催
- ・先進的取組、好事例の共有
- ・各種支援、助成等の情報提供 など



時期 ➤ 令和5年1月公開

内容 ➤ 「ひとりじゃない」「声を聞かせて」のメッセージを発信
➤ 相談窓口の一覧を掲載

- ・ ライフステージに応じた相談窓口
- ・ 個人の生活環境・悩みに応じた相談窓口



【情報の発信】 令和5年度 デジタルマップの活用

目的

- プラットフォーム会員の取組の周知
- 孤独・孤立状態にある方への取組の周知と参加の促進

時期

- 令和6年1月 運用開始

内容

- 会員の取組のデジタルマップ化

埼玉県 GIS (地理情報システム)

埼玉県の様々な地理情報を公開しています。
複数の地図を重ね合わせたり、最寄りの施設を探したりすることができます。

お知らせ

- 【2024/04/22】 「道路・河川インフラマップ」「道路・河川の3Dマップ」を追加しました。
- 【2024/03/27】 「3D都市モデル」「埼玉県地籍調査状況マップ」を追加しました。
- 【2024/01/30】 アンケートにご協力ください。[利用案内アンケートはこちら](#)
- 【2024/01/30】 埼玉県GIS (地理情報システム) をオープンしました。

地理情報

埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」



3Dハザードマップ

3D都市モデルで洪水と土砂災害のリスクを「見える化」しました

[閲覧してみる](#)



3D都市モデル

県内12市町を掲載
その他の市町村はデータ整備中

[閲覧してみる](#)



バリアフリーマップ

バリアフリートイレ設置施設、思いやり駐車場制度協力施設

[閲覧してみる](#)



パパ・ママ応援ショップ等

パパ・ママ応援ショップ、赤ちゃんの駅 など

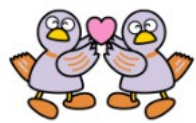
[閲覧してみる](#)



埼玉県AEDマップ

埼玉県に届出のあったAED設置施設のうち公表可能な設置施設

[閲覧してみる](#)



プラチナサポートショップ

高齢者の皆さんの暮らしを支えるサービスを行っている企業やお店

[閲覧してみる](#)



つながるSAITAMAマップ

埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム参加団体の取組

[閲覧してみる](#)



社会福祉施設マップ

老人施設等、障害者施設等、児童施設等、その他施設

[閲覧してみる](#)

埼玉県 つながるSAITAMA取組マップ 孤独・孤立対策

住所または場所の検索

凡例/情報

イベント開催情報

- 講演会
- 相談窓口（対面）
- 相談窓口（電話・SNS等）
- 子育て支援
- 食料支援（子ども食堂含む）

つながるSAITAMA取組マップの情報を表示しています。

<問合せ先>
福祉政策課
(TEL : 048-830-3223)

イベント開催情報

通し番号 0013

団体種別 NPO等

団体名 上戸田地域交流センターあいパル

活動の種類 イベント

活動内容 ちぎり絵

活動内容の詳細 ラジオ体操に参加した後のイベントにも参加して、交流して顔見知りをつくり孤立を防止する。

開催日 月2回

ズーム

共通メタバース空間の活用

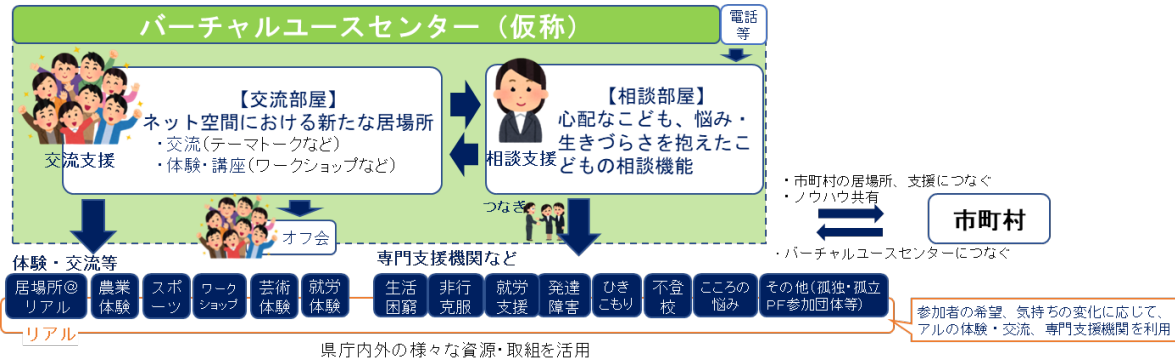
① 「つながるSAITAMAフェスタ」の開催

- ・ 孤独・孤立を感じる若者を対象
- ・ PF会員の取組を発信
- ・ 令和6年12月頃予定



② 「バーチャルユースセンター（仮称）」との連携

- ・ 小学生から義務教育終了後の大学生程度までを対象
- ・ 気軽に参加でき体験・交流・相談等の機能を備えた
こども・若者の新たな居場所
- ・ 令和6年10月～試験運用 令和7年10月～本番運用



普及啓発用Web広告

- ・ SNSでの動画配信で視聴回数30～50万回を想定
- ・ 20～40代の現役世代を対象
- ・ プラットフォーム会員の取組紹介、「ひとりじゃない」「声を聞かせて」のメッセージ発信
- ・ 「つながるSAITAMAフェスタ」や「バーチャルユースセンター」への誘導
- ・ 視聴傾向を分析して今後の施策検討に活用
- ・ 令和6年12月頃予定 2週間～1か月の集中配信



【会員の活動の支援】 令和5年度 第1回意見交換会(若者が参加しやすい居場所づくり) 5

日時・参加者 令和5年7月20日（木）9時30分～12時・44団体（対面30名及びオンライン41名）

- 内容
- 1【講演】「若者のつながり・居場所づくり」
講師：認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長、東京大学特任教授、社会活動家 湯浅 誠 氏

➤ 孤独や繋がりの問題には一概にゴールがあるわけではなく、常に変化し続けるものであり、地域によって異なる対策が求められ、それに合わせて柔軟に取り組むことが大切。

➤ 居場所づくりは場所を作る側の意図ではなく、訪れる人々の感じ方や繋がりによって成り立つもの。特定のプログラム等に縛られることなく、人々が自然な形で交流し、共感し、つながりを築く場の提供が重要。

2【グループワーク】「若者が参加しやすい居場所づくり」
進行：認定NPO法人さいたまNPOセンター 村田会員 /ファシリテーター：NPO法人新座子育てネットワーク 坂本会員ほか

グループワークのテーマ選択結果	選択数
居場所づくりで行政にできること、NPO・企業にできることはなにか（役割分担）	6 G
若者の居場所の必要性、若者が抱える課題（背景）	6 G
若者にたどり着くまでの手段は？（広報）	4 G
若者サポートで一番大切にしたいことは何か（ミッション）	3 G
担い手はどうやって確保するのか（人材）	2 G
どこと連携したいか、その方法は？（連携方法）	1 G

- 講評：文京学院大学教授 中島会長
- このような場での意見交換の重要性は具体的な実践を行っているNPO等の方々と行政側が情報を共有し、体系的かつ計画的なアプローチで取り組むことが必要。

➤ 企業側の立場からも持つ資源を有効に活用し、協力していくことが重要との意見があった。

➤ SNSやタブレット等を活用することで孤立や遠隔地に住む若者へのアプローチが可能となる。

日時・参加者 令和5年11月29日（水）14時～16時30分・25団体（対面12名及びオンライン24名）

内容

1 【講演①】「つながりで健康づくり」 講師：東京都健康長寿医療センター 村山 洋史 氏

- つながり（孤独・孤立）が健康に与える影響を高齢者の例を中心に様々なデータに基づき解説
ex) ＊死亡リスクが高いライフスタイル
 - ①社会とのつながりが少ない(1.9倍) ②喫煙(1.6倍) ③過度の飲酒(1.4倍) ④運動不足(1.2倍) ④肥満(1.2倍)
- ＊人との交流の少なさは週1回未満から健康リスクになり得る（このあたりから社会的孤立と呼べそう）
- ＊グループ参加・運動頻度と4年後に要介護認定を受けるリスク
 - グループに不参加、運動は週1回以上(1.29倍) > グループに参加、運動は週1回未満(1.16倍)
- ＊金銭目的のみの就労では健康は維持できない、就労でも生きがいを持って従事することが大事
- ＊コロナ禍においては、社会的孤立は中高世代で高く、孤独感若い世代が高い

【講演②】「最長寿香港と高齢者雇用の事例」 講師：香港在住ジャーナリスト 甲斐 美也子 氏

- 香港長寿の背景：孤立しづらい社会習慣（早朝は太極拳、飲茶店では相席が基本で毎日通ううちに友だちができる、週末は大家族で集まって飲茶ランチ）など
- ソーシャルワーカーが起業した高齢者雇用のためのレストラン「銀杏館」の紹介

2 【グループワーク】「高齢者の社会参加再構築」 進行／講評：文京学院大学教授 中島会長

（講評）

- 福祉を超えた、地域づくりやまちづくりの視点が重要
- 活動が進むためのインセンティブが何かという点の議論があった
- 社会参加や孤立した高齢者の把握については、居場所の確保が重要なキーワードとなっていた
- 情報をどう伝えるかについて、高齢者が目にするメディアの使用や医療機関での情報提供などの提案があった

日時・参加者 令和6年1月9日（金）14時～16時30分・オンライン73名（市町村47・社協14・NP0等12）

内容 1 【講義】「孤独・孤立対策推進法について」
講師：内閣官房孤独・孤立対策担当室 参事官補佐 青野 恵里子 氏

アンケート回答		主な意見
大変有益	3	●プラットフォームの基準がわからなかったので知識の底上げができた。 ●これまで体験したことのない内容であり、横ぐしの壁の乗り越え方は参考になった。 ●社協や行政だけでは解決できない問題も多いので、プラットフォームづくりに積極的に取り組んでいけたらと思う。
有益	19	
どちらともいえない	6	▲趣旨はわかったが具体的な話がなかった。
あまり有益ではなかった	2	×プラットフォームを作るイメージが掴みづらい。 ×カバーする範囲が広すぎて、市町村社協がどう活動すべきなのか明確にならなかった。
有益でなかった	1	

2 【講義・グループワーク】「地方版官民連携プラットフォームを作るときのポイント」
講師：特定非営利活動法人 協力アカデミー 代表 松原 明 氏

アンケート回答		主な意見
大変有益	10	●現在、重層的体制整備事業に取り組んでいるがプラットフォームについて知識が不足していた。今回の研修で理解が深まり、活用できるようにしたい。 ●相利という言葉は初めて聞いた。今後、相利の視点で様々な機関・団体と連携ができればと思います。 ●障害児の親の会の事例のフォーマットは、関係者が話しあう場合、良いツールになると思った。 ●12年間子育て支援と多世代交流を続けてきたがプラットフォームが上手くできず企業との連携も中途半端。貴重な話を聞いた。
有益	20	
どちらともいえない	0	×おっしゃることは理解できます。しかし、市町村がどのように動けばいいのか具体性が乏しかったと思います。
あまり有益ではなかった	1	
有益でなかった	0	

① 意見交換会等の開催

- ・ 令和6年度のテーマは「妊産婦や乳幼児の子育て期における孤独・孤立対策」を予定

【埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 運営協議会からの意見】

- 幼少期に受けるべき愛着形成等の足りないことから起因する様々な困難を抱えている若者を支援しているが、一番上流のところの孤立する妊産婦を防ぐ視点で官民連携で取組ができないか。
- 子育て支援センターに配置されている相談専門の利用者支援専門員の講師をしており、まさに孤独・孤立と合致するところで仕事をしている。子育て中の孤独・孤立対策は、親御さんだけでなく、養育しているお子さんにも影響があるので、ぜひ、新年度のテーマとして何か掲げていただきたい。

② 好事例のデータベース化とPR

- ・ NPO、企業、市町村等が連携して孤独・孤立の予防・解消に取り組んでいる好事例を収集し、情報を共有
- ・ 特に横展開が期待できる好事例は広く県民にPR

③ 支援企業とのマッチング

- ・ 支援を必要としているNPOと社会貢献を考えている民間企業をマッチング

▶▶▶ 共通メタバース空間の「つながるSAITAMAフェスタ」「バーチャルユースセンター」も活用して、埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの活動フィールドを効果的に拡大していく

- ✓ 孤独・孤立の状況は多種多様。予防から個別支援まで、福祉の枠にとらわれない幅広い取組が必要
 - ・「ひきこもり支援」などは具体的で分かりやすいが、孤独・孤立対策のイメージが広がらない。
 - ・幅広い取組を横並びにすると、孤独・孤立対策のイメージがぼやけてしまう。
・・・・・・・・・・県民や企業への理解促進の難しさ

- ✓ 各自治体が「孤独・孤立対策」で企業にアプローチしても響きにくい
 - ・「こどもの居場所づくり」のように、具体的で明るさが感じられる取組に企業の支援が偏りがち。
 - ・SDGsのように、国の働きかけや大企業の取組が目に見えると、地域の中小企業も追随しやすい。
・・・・・・・・・・企業とのマッチングの難しさ

- ✓ 県と市町村がお互いの役割分担について共通認識を持つことが必要
 - ・孤独・孤立対策推進法では、県と市町村の役割を分けていない。
 - ・自ら積極的に孤独・孤立対策（プラットフォームや地域協議会の設置等）に取り組む市町村が少ない。
・・・・・・・・・・市町村との役割分担の難しさ

ご清聴ありがとうございました

